

地方行政

◎昭和23年7月9日 第3種郵便物認可◎毎週2回月・木曜日発行(但し祝日を除く)◎購読料金 月額税込み5,565円
発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座5丁目15番8号 時事通信社

道
村

自信と誇りを 持てる村へ

せき かずのり にしめや
関 和典 青森県西目屋村長



今年、東北に住む私たちにとって試練の時を迎えています。東日本大震災は青森県の辺境に位置する村にも大きな影響を及ぼしましたが、世界遺産と水源の里を全国に発信しながら、多くの人々に

訪れていただけの魅力ある地域として歩めるよう、努力を重ねてまいりたいと考えています。今までの「寒く貧しく政争の激しい村」のイメージを払拭するため、「子どもとお年寄りにやさしい村づくり」を基本に、新しい政策を打ち立て、その公約を実行することで、村のイメージが変わるように努力してきました。その結果、村始まって以来の無投票再選を果たし、「村政の継続へ」と確かな歩みを進めさせていただいています。村民の姿勢にも凛とした心意気と静かな達成感が見受けられ、村民融和の下で一丸となつて新しい時代へと動きだしていると確信しています。

私たちの村は、世界自然遺産・白神山地の麓にあり、小さくともキラリと輝く地域づくりを目指しています。東北地方で有数の大きさを誇る津軽ダム建設を抱え、全国でも唯一の「世界遺産と水源の里」の名にふさわしい自治体です。白神のブナ原生林を源として流れる岩木川は、豊かな津軽平野を潤し、眼上には雄々しい姿の岩木山を望む風光明媚な景観を多く持ち、貴重な手付かずの自然の宝庫となっております。

高校卒業までの医療費および保育料、妊産婦検診の無料化など、行政改革で得たお金を「物から人へ」と村民に還元させることで政策推進に反映させます。さらには、村営住宅の整備によって若者世帯の定住促進に全力で取り組んでまいりたいと考えています。

村民が住民投票によって自立する村を選んだことを最大限尊重するとともに、小さな村として人口が少ないことを逆に利点とし、政策の選択と集中に努力しながら、確実に西目屋村が変わってきていると良い評価をいただけるよう、今後とも自分たちが住む地域に「自信と誇り」を持ち、さらに魅力ある村づくりを進める決意をしています。

2011年(平成23年)

10月13日[木]

第10261号

目次

木曜連載	2
地域力と地域創造③=視察には質問項目持参で参加しよう—6次産業の旗手といわれる三つの事例	
行政EXPRESS	6
和歌山県、沖縄県、川崎市・横浜市・神奈川県	
霞が関かいわい	6
経済産業省	
一家言	7
被災地格差	
内政フォーカス	8
来年度予算概算要求	
農政ウオッチング	9
森林除染経費計上へ 都市と農村の交流促進を	
木曜連載	10
個性輝く自治を目指して⑤=付加価値を生む自治体業務のあり方(2)—現行の予算編成に対する疑問	
特集	14
行政壊滅からの再生—陸前高田市=3分の1になった災対職員—東日本大震災で得た三つの教訓	
総務省の自治体アンケート	18
4割超が大学関係者と連携=地域おこしなどの先進事例集を作成へ	
六団体	20
地域主権改革、進展気配なし 世界遺産登録へ全面協力	